

1. 件名

洋上風力発電に係る漁業影響調査手法検討

2. 目的

着床式ウインドファームの開発に係る海域の漁業影響調査の方針提示等、参考資料となる漁業影響調査の調査手法を検討する。

3. 内容

既往知見の収集、関係者・有識者への聞き取り等によって得られた洋上風力による漁業影響とその影響予測・評価のための調査手法（以下、調査手法とする）に関する情報に基づき、想定される漁業影響と、漁業影響の種類毎の調査手法をとりまとめる。

(1) 既往知見の整理

洋上風力による漁業影響とその調査手法に関する国内外の既往知見（文献、報告書等）を収集する。

(2) 有識者へのヒアリング

洋上風力（あるいはその類似事業）による漁業影響に詳しい有識者に聞き取りを行い、想定される漁業影響とその調査手法に関する情報を収集する。

(3) 実海域\*におけるヒアリング

実区域における漁協、漁連等を対象に聞き取りを行い、対象区域における漁業実態（漁獲対象生物、漁法、漁場、漁期、増養殖事業等）および漁業者が懸念する漁業影響に関する情報を参考に収集する。

(4) 漁業影響調査手法のとりまとめ

(1)～(3)で得られた情報に基づき、以下に示す内容についてとりまとめ、骨子案を10月中旬を目途に提出する。

1) 漁業影響調査手法の考え方

想定される漁業影響、基本的な調査内容・手順、調査対象区域・期間等

2) 調査項目の選定

調査すべき項目とその海域特性等に応じた選定の考え方

3) 調査項目ごとの調査方法

現地調査手法、調査時期・頻度、範囲・測点配置、留意事項等

4) 調査結果の解析・とりまとめ

影響の予測・評価の方法等

5) その他

環境影響評価調査との仕分け、モニタリング調査の必要性、有識者による確認の必要性等  
なお、内容については、適宜委託元と協議して検討する。

(5) 実海域\*の漁業影響調査手法の検討

(1)～(4)の結果を用いて、実海域\*の海域特性や漁業実態に応じた漁業影響調査の方法についても簡易な検討を行い、参考資料を作成する。

(6) 結果のとりまとめ・検討委員会

(1)～(5)の内容を整理し、「漁業影響調査手法のとりまとめ」を作成する。「漁業影響調査手法のとりまとめ」に関しては、最終版を12月下旬を目途に提出する。

一方、「漁業影響調査手法のとりまとめ」は、合理的でかつ漁業者の理解を得られるものがある必要がある。そのため、有識者、漁業関係者、洋上風力発電事業関係者等からなる委員会を設け、調査計画および調査結果のとりまとめ等に関する意見を聴取する検討委員会を開催(2回程度)するとともに、適宜各委員の意見を聴取し、その意見を踏まえて報告書の作成を行う。

※4 海域程度を想定

#### 4. 調査期間

NEDOが指定する日から2020年2月28日まで

#### 5. 予算額

1,500万円以内

#### 6. 報告書

提出期限：2020年2月28日

提出部数：電子媒体CD-R（PDFファイル形式） 1枚

提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

#### 7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上